



みいたんはぬいぐるみとおすなば遊びが大好きなとっても元気な女の子です。

保育園では泥だんごづくりに夢中。そんなみいたんも来年は1年生です。

今日はお母さんとお姉ちゃんのちいちゃんとデパートにやってきました。

ここはオモチャ売り場です。

みいたんの大好きなものがいっぱいです。

「みいたん！そろそろお家に帰るよ！」

ちいちゃんが声をかけますが、みいたんはぬいぐるみコーナーを離れられません。





だってこの子がじいーとみいたんのことを見つめているんですもの。

「このロバちゃん、ほしいな。さっきからね、ずっとこっち見てくるの。かわいいなあ。名前もつけてあげた！この子はね、ぽーちゃん。」

「ぽーちゃんかわいいね。でもとっても大きくて、今日はもってかえれないなあ。ごめんね。」とお母さんは言いました。

「みいたんのお小遣いでは買えないねえ。」
とちいちゃんと言いました。

毎日レストランでがんばって働いているお母さんに、みいたんはおもちゃをおねだりしたことはありませんでした。

しょんぼりしているみいたんにお母さんが声をかけてくれました。

「そうだ！こんどのお年玉で買いにこようか。今日からぽーちゃん貯金をしよう。」

その日からみいたんのぼーちゃん貯金が始まりました。
あたらしい貯金箱を買ってもらいました。

「今日はどれぐらいたまったかなあ。」

毎日毎日みいたんは貯金箱をふってみました。

♪ チャリン！チャリン！

少しずつお金がたまっていくのが分かり、みいたんは
とてもワクワクしました。

そして、小学1年生のはじめての冬休み。

お年玉をもらうとやっとなぼーちゃん貯金がたまりました。

お母さんがデパートに注文の電話をかけてくれました。

いよいよぼーちゃんがお家にやってくるのです。



♪ピンポン！
「お届けものです！」

大きなプレゼントの箱が届き、ぽーちゃんが顔を出しました。

「会いたかったよ！とーっても会いたかったんだから！」

みいたんはぽーちゃんを抱きしめました。

ぽーちゃんはお家にやってきたその日、すぐにみんなの家族になりました。

ご飯を食べる時、歯磨きをする時もいつも一緒です。

ぽーちゃんがいてくれるので、みいたんはお留守番だって平気になりました。



寒い寒い冬の夜。

「そろそろお布団に入る時間だよ。おやすみしよう。」

お母さんの声を聞いて、
ふと、みいたんは思いました。

「ぼーちゃんも寒いだろうから、
一緒にお布団に入れてあげよう。」って。

「お母さん、ちいちゃん、おやすみなさい。」

「ぼーちゃんもおやすみなさい。」





ズズズ…ドドドド…

大きな大きな揺れで
みいたんはびっくりして
目を覚めました。

「何が起こったん？」

真っ暗闇の中、お母さんの声がしました。

「みいたん、ちいちゃん！
みいたん、ちいちゃん！」

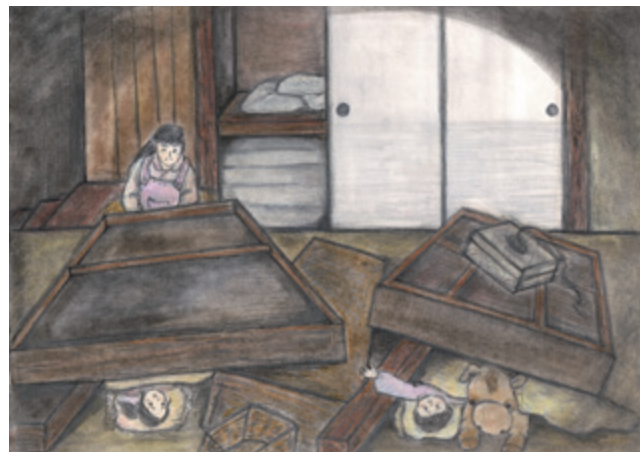
するとちいちゃんの声が聴こえてきました。

「痛い！痛いよ！」

みいたんも、ちいちゃんの声につられるように
「痛いよ！」と叫びました。

その時はじめて大きなタンスが上にのっかっていることに気がつきました。

横を見ると、ぽーちゃんがみいたんを守るようにタンスを頭で支えていました。



ちいちゃんの上にはタンスがいくつも重なっていましたが、うまく隙間ができたので、ちいちゃんも無事でした。

「さあ、ここから逃げよう！」

何が起きたか分からないまま、
ゆがんだ階段をそっとおりました。

ドアが開きません。

「みいたん、ちいちゃん！ 離れとくんやで！」

お母さんはそういつと何度もドアにぶつかって
みましたが、びくともしません。

お母さんがドアを蹴ったり、たたいたりするたび、
上からガラスが落ちてきました。





外から近所の人たちが叫んでいます。

「後ろの家が火事や！はやく外に出てくるんや！」

「助けて！神様助けて！」

大声で叫ぶと、

「今開けたるで！」

外からドアをひっぱり、
おじちゃんが助けてくれました。
助けてくれたお礼を言う間もなく、
おじちゃんは次のお家へ、
次のお家へと助けに向かいました。

やっとのことで外にでると、
街が真っ赤に燃えています。
電信柱が倒れ、道路が割れ、
向かいのアパートは一階部分がぺしゃんこです。
みいたんのいつも見ていた街が
めっちゃめっちゃになっています。

やっとみんな、
「今は地震だったんだ。」
ということが分かったのです。

となりのお家のお父さんが先頭に立ち、
「もう少し明るくなったらみんなで小学校に逃げま
しょう！」
と声をかけてくれました。



ここはみいたんが通う小学校の体育館です。
みいたんと同じように、お家をなくした人たちが次から次へと体育館にやってきました。

「これからどうなるんだろう。」
みんな、とても心配そうな顔をしています。

そこへ、みいたんを見つけたお友だちのさえちゃんが
かけよってきました。

「みいたん！ぶじでよかった！」

「さえちゃんも！」

「あのね、となりのクラスのみよちゃんがね、亡く
なったんだよ。それから、校長先生とね、5年生のだ
いちゃんもなくなったんだ。」

「…。」



みいたんはみよちゃんを想いました。

いつも笑顔が素敵で頑張り屋のみよちゃん。

いっしょに遊んだことはなかったけれど、昨日まで近
くにいた友だちや先生が亡くなったと聞き、みいたん
は悲しくなりました。

そして、家に置いてきたぼーちゃんのこともずっと気
になっていました。

「ぼーちゃんに会いたいな。」

その次の日、お母さんのお友だちがみいたんとちいちゃんのところに行ってきました。

倒れかけたお家に入り、ぼーちゃんを助けてだしてくれたのでした。

みいたんをかわいそうに想い、がれきの中からぼーちゃんを探し出してくれたのでした。

「ぼーちゃんはみいたんを助けてくれたんやもんね。宝物やもんね。」

みいたんは嬉しくて、ちょっと涙が出てしまいました。



それからしばらくして、みよちゃんが亡くなった時の
お話を先生から聞きました。

みよちゃんは発見された時、
保育園に通う小さな妹と仲良く手を繋いだまま、
亡くなっていたそうです。

「もっともっと生きてかっただろうな。」

みいたんは心が痛くなりました。





あれからみいたんは大きくなってお母さんになりました。

地震の時、たまたまポーちゃんと寝ていて助かったみいたんの命は今、坊やと赤ちゃんにつながりました。みいたんは坊やに優しく語りかけます。

「あの日…大きな地震が起きた日。ママはね、たくさんの人たちに助けてもらったんだ。」

「それからね、生きることの出来なかった命があったの。

でもね、その人たちの命はみんなの心の中に生き続けているんだよ。その手に触れることが出来なくても、ちゃあんと繋がっているんだよ。」



『みいたんとぼーちゃん』
お しま い。



ぼーちゃんはいまも子どもたちの人気者です

第2次西宮市人権教育・啓発に関する基本計画

西宮では、一人ひとりの「人権（じんけん）」が尊重されるまちをめざすため、令和元年から10年間の人権教育・啓発についての計画をつくりました。

この計画では、

- ◇一人ひとりの『自己肯定感』を高める～子供も大人も、みんな「大切な存在」～
- ◇一人ひとりが『多様性』を認め合う～みんなちがってあたりまえ～

これらの「2つのキーワード」を「一番大切にしたいこと」として、これらの視点を踏まえた取組みを進めていきます。

人権文化の花咲くまち 西宮をめざして 24

令和5年（2023年）3月発行
西宮市・西宮市教育委員会
文・画：米光 智恵



※作中の名前等は仮名です。



令和5年（2023年）3月発行

編集：西宮市

〒662-8567 西宮市六湛寺町10番3号 ☎(0798)35-3320